

SR-S224TC2 V12.05 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	VLAN情報の簡易表示コマンドの追加	VLAN情報の簡易表示コマンド(show vlan brief)を追加しました。
2	WEB設定画面の改善	WEB設定画面のタイトルバーに機種名を表示するようにしました。装置名称設定時には装置名称(ホスト名)を表示します。
3	未サポートのSFP/XFPモジュール種別のチェック強化	未サポートのSFP/XFPモジュール種別が実装された場合は、モジュールの光信号出力を有効にしないよう変更しました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.00～V12.03	本装置にsshあるいはsftpで接続したとき、装置内処理に遅延が発生し、セッション監視がタイムアウトが発生するなどの運用に影響を及ぼす場合がある。
2	V01.00～V12.03	Web認証が定義矛盾による無効な状態から、その定義矛盾要因を解消してもWeb認証が有効とならない場合がある。
3	V01.00～V12.03	ether egress permissionコマンドにて転送許可ポート指定されたポートが、リンクアグリゲーションまたはバックアップポートで、かつグループ構成を変更した場合に、転送許可ポート設定が変更されない。
4	V12.01～V12.03	リンクアグリゲーションに設定したVLAN転送設定(vlan forwardコマンドで設定)されない場合がある。
5	V11.00～V12.03	IEEE802.1X認証ポートでループ状態が継続しているにも関わらず、ループ検出機能によるポート遮断状態が解除される場合がある。
6	V01.00～V12.03	STP機能を無効としBPDU転送モード有効とした状態から、STPを有効(BPDU転送モード無効)に設定変更すると、STPが有効にも関わらず、受信したBPDUを同一VLANのポートに転送し続ける。
7	V11.00～V12.03	IPv6マルチキャストフレームを、CPUポートにて受信すると、“show ipv6 traffic udp”で表示される“delivered”の統計カウンタが不正な値となる場合がある。
8	V11.00～V12.03	端末からICMPv6リダイレクトフレームを受信すると、リダイレクト先のリンクローカルアドレス(Target Address)と、その経路を使用する別セグメントのアドレス(Destination Address)が一定時間超過しても、Neighbor Cacheエントリからエージアウトされずにエントリし続ける、または最大値を超えてエントリされる場合がある。
9	V12.00～V12.03	Web設定画面にて、ARP認証の通信妨害の定期送信間隔指定で設定可能範囲が0、10～43200秒(12時間)にもかかわらず、単位がデフォルトで「日」がプルダウン表示される。
10	V10.00～V12.03	VLAN IDが4桁のVLAN定義を100個程度設定すると、WEB設定画面から「vlan情報>基本情報」をクリックするとシステムダウンすることがある。
11	V12.00～V12.03	不当な内容を含むLLDP隣接情報パケット受信後に、show lldp neighbors detail コマンドを実行すると装置がループしたりシステムダウンすることがある。
12	V12.00～V12.03	動的定義変更にて既に設定済のMACアドレス認証不要端末アドレスエントリ設定が無効になる場合がある。
13	V10.00～V12.03	RADIUSサーバへ認証要求中にMACアドレス認証初期化コマンド(macauthctl)実行すると稀に認証失敗となる場合がある。
14	V10.01～V12.03	MACアドレス認証ポート間で端末が極めて短い時間でポートムーフを繰り返した場合に、同一端末が複数のポートで認証成功となり移動前のポートの認証状態が不正に残る場合がある。
15	V10.00～V12.03	ハードエラーが常時発生している状態で、clear logging errorコマンドを発行するとFLASHメモリ内に同一ハードエラーログ情報が重複して記録されることがある。
16	V01.00～V12.03	1Gポートにおいて、出力キューにフレームが滞留している状態(出力ポートにリンク速度のフルワイヤを越えるトラフィックが集中している状態、または、半二重モードでリンク速度のフルワイヤのトラフィックで双方向通信してコリジョン発生により送信待機が発生している状態)で、ポートの動的定義変更を実施すると、リンクダウン後、再びリンクアップしない場合がある。